

第4次砺波市地域福祉活動計画

令和5年度評価

令和6年6月

社会福祉法人 砺波市社会福祉協議会

第4次砺波市地域福祉活動計画 令和5年度評価（報告）

1 砺波市地域福祉活動計画

第4次砺波市地域福祉活動計画（以下「地域福祉活動計画」という。）は、「互いに助けあい 励ましあう あたたかいまちづくり」の実現に向けて、地域住民が主体となり地域福祉を推進していくための活動の方向を示した5か年（令和3年度から令和7年度まで）計画です。

2 砺波市地域福祉活動計画の評価

この評価は、地域福祉活動計画に掲げる各実施計画に対して行うものであり、砺波市地域福祉活動計画評価委員会（以下「評価委員会」という。）において、令和5年度の事業実績及び計画の進捗状況について評価・検証いただくものです。

3 第4次砺波市地域福祉活動計画 令和5年度の評価の方法

- （1）砺波市社会福祉協議会（以下「市社協」という。）において、11の実施計画の令和5年度における実施状況等を確認し、以下のとおり、4段階評価の自己評価を行いました。
- （2）市社協の自己評価をもとに、評価委員会（令和6年5月14日開催）にて実施状況等を評価・検証し、以下のとおり、4段階評価の総合評価を行いました。

4段階評価

3	計画どおり進んでいる。 （8割以上）
2	概ね計画どおり進んでいる。 （7～8割程度）
1	あまり進んでいない。 （4～6割程度）
0	進んでいない。 （3割以下）

4 評価の結果（まとめ）

評価結果は「評価シート」のとおりです。

5 令和5年度の評価を踏まえて

市社協では、この評価を踏まえ、評価シートの「今後の方向性」で示した部分を重点事項として、令和6年度事業計画の実施と地域や関係機関と一緒に福祉課題の解決に向けて取り組み、地域福祉活動計画の推進を図っていきます。

令和5年度「第4次砺波市地域福祉活動計画」評価①		
地域福祉活動 計画体系	基本目標	1 住民主体の地域づくり
	方向性	(1) 組織の充実と地域福祉に対する意識の醸成
	推進目標	① 地区福祉推進協議会と連携し地域課題の解決につなげます
	実施計画	地区福祉プランの支援
	ねらい	策定された地区福祉プランを基に、各地区での福祉活動の推進に向け支援することで、地域課題の解決と福祉への意識付けにつなげます。

指標の名称		R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
成果を 図る主 な指標	計画の説明会を開催した地区数(評価も含む)	18 地区	20 地区	21 地区		
	地区懇談会等へ社協職員の出席回数	65 回	71 回	88 回		
主な 取り組み	■各地区福祉プラン実施に向けての活動支援協力 ・21地区の地区福祉プランヒアリング訪問を実施し、2年目の進捗状況を確認するとともに今後の取組みや課題について検討した（地区と社協） ・モデル事業として「地域なんでも相談窓口」を梅檀野地区と梅檀山地区で実施した。その効果を踏まえ、令和6年度から「砺波型福祉のまちづくり事業」を新たに実施することになり、他の地区でもこの取組みを推進していく。2地区のほか5地区で実施する予定。（地区と社協） ・CSW 出張相談を4地区で実施した。（地区と社協）					
	主な地区福祉プラン取組み 梅檀山地区：地域の方が気軽に集まれる場所づくり ⇒コスモスカフェ（毎週木曜日）、バスハイク 中野地区：地域の福祉意識の醸成を図る ⇒地区福祉プラン検討会・懇談会 五鹿屋地区：災害時の支援が必要な方の安全な避難のために ⇒避難行動要支援者への安否確認やサポートなどを確かめる防災訓練					

成果と課題	・地区福祉プランの2年目の進捗状況を確認できた。地域での懇談会や研修会などの開催回数が増えてきて、福祉への関心の高まりと取組みが増えてきている。一方、福祉の取組みが進まない地区もある。 ・地域の方が主体となって相談を受付ける「地域なんでも相談窓口」をモデルで実施したところ、身近な相談窓口として気軽に相談する地域住民が見られ、困りごとの掘り起こしや地域住民の福祉の意識の醸成につながった。この結果をもとに市と協議を図り、令和6年度から新たな事業として「地域なんでも相談窓口」を推進していくことになった。 ・コロナが5類になり、地域の方が集う居場所づくりを進める地区が増えてきた。	社協判定
		3
評価委員会の 意見	・モデル事業であった「地域なんでも相談窓口」が新規事業として他の地区へも広めていくことになったことは評価できる。この事業が、相談だけにとどまらず、地域の方の居場所となれば良い。 ・地区福祉プランの取組みが進まない地区があるが、計画通り進むよう支援が必要である。	総合判定
		3

【判定】 3：計画どおり進んでいる 2：概ね計画どおり進んでいる 1：あまり進んでいない 0：進んでいない

今後の 方向性	・各地区が新規事業の「砺波型福祉のまちづくり事業」を活用し、地域主体の誰もが安心して過ごせる地域づくりにつながるよう、地区の方々と一緒に取り組んでいく。 ・地区福祉プランの進捗状況を確認するとともに、地域福祉懇談会を開催し地域課題を把握することで、地域が取組むべきことを明確にしていく。
------------	--

令和5年度「第4次砺波市地域福祉活動計画」評価②		
地域福祉活動 計画体系	基本目標	1 住民主体の地域づくり
	方向性	(1) 組織の充実と地域福祉に対する意識の醸成
	推進目標	② 福祉を身近なものに感じてもらえるよう福祉教育の充実を図ります
	実施計画	福祉教育の充実【重点計画】
	ねらい	子どもから大人まで、福祉について知る機会を多くつくり、福祉に関心を持つ人を増やします。

指標の名称		R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
成果を 図る主 な指標	小中学校等への授業への協力回数	14 回	20 回	22 回		
	地域や企業に向けた出前講座の実施回数	3 回	11 回	9 回		
主な 取り組み	■福祉教育プログラム検討会の開催					
	・福祉教育推進委員会を2回開催し、実施した福祉教育の評価を行った。評価をもとに「福祉教育プログラム」を作成した。(委員会と社協) ・障がい当事者、企業と一緒に福祉教育を実施した。(障がい者と企業、社協) ・依頼のあった小学校と一緒に、福祉教育のプログラムを考え実施した。その中から新たなプログラムを実施することができた。(学校と社協) ・中学生向けの福祉教育プログラムを校長会で提案し、モデル的に実施していただくようお願いした。(学校と社協) ・高校生の福祉課題解決研究の取組みに社協と地域で協力した。(学校と地域、社協)					
	■地域や企業に向けた出前講座の実施					
	・ふれあい・いきいきサロンや市内企業、各地区等の出前講座の一覧を配布し、出前講座活用の働きかけを行った(法人連絡会と社協) ・となみセントラルライオンズクラブ、となみ青年会議所、民生委員児童委員、各自治会等を対象に、災害ボランティアセンターネットワーク構築研修会を開催した。(企業と地区、社協) ・公民館まつりで、社協の出張所を開設し、相談の受付や事業についての説明を行った。e スポーツの出前講座の依頼も受け、三世代で楽しむ機会を作った。 ・となみセントラルライオンズクラブに対し、手話の出前講座を実施した。					

成果と課題	・福祉教育推進委員会を開催し、今まで取り組んできた福祉教育を検証した。これを踏まえ「福祉教育プログラム」を作成した。 ・高校生が砺波の福祉課題に目を向けて、解決に向けて高校生視点のアイデアを提案していた。地域の方が、高校生とのふれあいを楽しんでいた。 ・地域の多世代が集まる公民館まつりに、社協の出張所を開設したことで、相談を受け付けたり、事業の紹介をしたりと福祉に関心を持ってもらうきっかけとなった。	社協判定
		3
評価委員会の意見	・福祉教育プログラムができたことは評価できる。このプログラムがより効果的なものになるよう取組んでいく必要がある。また、福祉を志す人材の確保につながることを期待する。 ・公民館まつりなどを活用して、地域住民が福祉について学ぶ機会を得ることは良い。	総合判定
		3

【判定】 3：計画どおり進んでいる 2：概ね計画どおり進んでいる 1：あまり進んでいない 0：進んでいない

今後の方向性	・福祉教育プログラムを活用し福祉教育を推進していく。実施後は、効果等を検証しプログラムを見直すとともに、新たな福祉課題に対応した福祉教育プログラムを作成する。 ・人が集まる機会を活用し、大人への福祉教育を提案、実施していく。
--------	---

令和 5 年度「第 4 次砺波市地域福祉活動計画」評価③		
地域福祉活動 計画体系	基本目標	1 住民主体の地域づくり
	方向性	(2) 活動の中心となる担い手の育成
	推進目標	③ 地区の福祉活動者の支援を行います
	実施計画	「我が事情報」の勉強会の開催
	ねらい	将来の自分に役立つ情報を知るとともに、見守る側、お手伝いする側としての知識を広げます。

指標の名称		R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
成果を 図る主 な指標	福祉活動者向けの研修会の開催回数	13 回	35 回	54 回		
主な 取り組み	■地区の福祉活動者向けの福祉に関する研修会の開催					
	・民生委員児童委員の定例会で、社協の事業についてミニ研修を開催した。(民児協と社協) ・地域福祉コーディネーター連絡会を 3 回開催した。(コーディネーターと社協) ・自治会長や福祉サポーター等が参加するケアネット会議を 23 回開催した。(地区と社協) ・地区福祉推進協議会等で福祉サポーターの研修会を 16 回開催した。(地区と社協) ・民生委員児童委員、地域福祉コーディネーター等が参加するケアネット研修会シンポジウム(128 人)とケアネット活動推進会議(29 人)を開催した。(福祉活動者・関係者、社協)					
	■地区福祉推進協議会に出向き、住民への福祉情報の提供					
	・新規事業「砺波型福祉のまちづくり事業」の実施について、21 地区を回り説明を行った。(地区と社協) ・ボランティア養成講座や福祉イベント等の情報を各地区に配布し、地区住民に回覧板として周知をお願いした。(地区と社協) ・公民館まつりで社協の出張所を開設、福祉情報の発信を行った。(地区と社協) ・CSW 出張相談や若林地区のサポーター会議等で、福祉情報の発信を行った。(地区と社協)					

成果と課題	・地域で開催する研修会の回数が増えてきた。研修会だけでなく、会議や打ち合わせの場でもミニ研修を実施し、活動者に福祉の情報を提供する機会が増えてきた。 ・ケアネット研修会で高齢者以外の実践事例を紹介したことで、ケアネットの考え方が広がったとの意見があった。実践事例紹介は、ケアネットの役割と効果の理解を進めるものであると感じた。 ・地域福祉コーディネーターへの情報発信を積極的に行ったことで、地域福祉コーディネーターからの相談や依頼が増えた。また、地域とのつながりが増えたことにより、地域の課題などが見えてきた。	社協判定
		3
評価委員会の意見	・研修会の回数が増えてきたことは、地域の福祉に関する意識変化であり評価できる。しかし、研修会を実施したことで、地域の担い手が増えたのか検証が必要である。	総合判定
		3

【判定】 3：計画どおり進んでいる 2：概ね計画どおり進んでいる 1：あまり進んでいない 0：進んでいない

今後の方向性	・地域と協働し研修会の実施や福祉情報の発信を行っていく。まずは、身近な福祉課題をテーマにした内容で福祉に関心を持ってもらい、理解者を増やしていく。理解者が活動者になるよう実践的な内容の研修会を検討していく。
--------	---

令和5年度「第4次砺波市地域福祉活動計画」評価④		
地域福祉活動 計画体系	基本目標	1 住民主体の地域づくり
	方向性	(2) 活動の中心となる担い手の育成
	推進目標	④ 福祉活動の担い手の育成と新たな人材の掘り起こしを行います
	実施計画	地域を支える人材の発掘と育成【重点計画】
	ねらい	地域で行われている福祉活動について知ってもらい、世代を問わず、地域で活躍する新たな人材発掘につなげます。

指標の名称		R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
成果を図る 主な指標	福祉活動者数（ケアネット等参加延べ人数）	592 人	1,012 人	1,039 人		
	福祉サポーター数	396 人	374 人	372 人		
	ボランティア養成講座受講者数	34 人	23 人	31 人		
主な取り組み	■現在行っているボランティア活動や地域の福祉活動者の情報を発信					
	・市内ショッピングセンターでボランティア活動紹介展を開催し、ボランティア体験コーナーの実施や活動写真パネルを展示した。（ボランティアと企業、社協）					
	・ボランティアフェスティバルを開催し、体験コーナーや活動紹介写真を展示した。（ボランティアと社協）					
	・広報やホームページ、SNS でボランティア活動の情報を発信した。（社協）					
	■地区の福祉活動を発信し協力者を発掘					
	・地区の会議等で福祉サポーターに福祉サポーターの役割を説明した。（地区と社協）					
	・令和6年度からの新たな任期の福祉サポーターの協力を全地区にお願いした。（社協）					
	■地区内の専門分野で活躍する人材の把握と活用					
成果と課題	■地域の福祉活動者への福祉情報の提供					
	・民生委員児童委員の定例会で、社協の事業についてミニ研修を開催した。（民児協と社協）					
	・地域福祉コーディネーターに対し、福祉情報の提供や他地区の取組みを伝えた。（コーディネーターと社協）					
	・ケアネット会議等に集まった福祉サポーターに対し、事業や市内の福祉についての情報を発信した。（福祉サポーターと社協）					

成果と課題	・久しぶりにボランティアフェスティバルを開催できた。親子連れを中心に約 600 人の参加があり、活動紹介や体験コーナーを通してボランティアへの関心を持ってもらうことにつながった。 ・福祉サポーターの研修依頼が増え、多くの方に福祉サポーターの役割を理解していただいた。地区福祉推進協議会も福祉サポーターの重要性の理解を深めてきたようで、研修会や懇談会の開催が増えた。 ・定年延長等により 65 歳過ぎても働いている方が多く、地区における新たな人材の確保が難しい。	社協判定
		2
評価委員会の意見	・人材確保に向けて、新たな「仕掛け」が必要である。また、福祉への関心を持ってもらうよう、現在実施している取組みを継続していくことが重要である。	総合判定
		3

【判定】 3：計画どおり進んでいる 2：概ね計画どおり進んでいる 1：あまり進んでいない 0：進んでいない

今後の方向性	・地域課題の解決に必要な人材を明確にするとともに、その人材が活躍できる場を作っていく。また、安心して活動していただけるよう、講座の開催や環境の整備をサポートしてゆく。
--------	---

令和5年度「第4次砺波市地域福祉活動計画」評価⑤		
地域福祉計画体系	基本目標	2 みんなで支える地域づくり
	方向性	(1) ボランティア活動の推進
	推進目標	⑤ ボランティア活動者の活躍の場を広げます。
	実施計画	ボランティア活動の推進
	ねらい	ボランティアを身近に感じられる体制づくりや、ボランティア活動の紹介などを通して活動の場を拡充していくなど、ボランティアセンターの機能の強化を図ります。

指標の名称		R3	R4	R5	R6	R7
成果を 図る 主な 指標	ボランティア登録者数	4,825 人	4,461 人	4,501 人		
	レッツボランティア となみポイント制	11,527 人	12,147 人	12,219 人		
	シニア元気あつぷ ポイント事業	2,128 人	2,152 人	2,168 人		
主な 取り組み	■SNS等を活用したボランティア情報の発信					
	・ホームページでボランティア募集情報を発信した。(社協)					
	・ボランティア活動者向けにSNSの活用についての講座を開催し、活動の積極的な情報発信を促した。(市と社協)					
	■企業と連携した啓発活動の推進					
	・ショッピングセンターで「となみSDGsWEEK2023 パネル展示」や「ボランティア活動紹介展」を開催し、ボランティア体験コーナーの実施や活動写真パネルを展示した。(ボランティアと社協)					
	■生涯学習としてのボランティア活動の推進					
	・手話奉仕員養成講座(入門コース)を開催した。(社協)					
	・3つのボランティア養成講座を開催した。(ボランティアと社協)					
	■専門分野で活躍する人材の把握と活用					
	・小学校での出前講座では、市内で活躍するボランティア団体に活動の様子を話してもらった。(学校とボランティア、社協)					
	・盲導犬ユーザー(視覚障害)に福祉教育の講師となってもらった。(学校と障がい者、社協)					
	・雑誌等のデザイナー(障がい者)をしていた方が、退職後、ボランティアとしてボランティアフェスティバルのチラシ作成をされた。(ボランティアと社協)					
	■ニーズに応じたボランティア養成講座の開催					
	・サロン等からeスポーツ体験依頼が多くあり、機材準備や遊び方指導などのボランティアが必要となり、「eスポーツサポーター養成講座」を開催した。(ボランティアと社協)					
	・広く多くの方へ情報発信するための「情報発信講座」を開催した。(社協)					
	■短時間ボランティア、自宅で出来るボランティアなど新たなボランティア活動の仕組みづくり					
	・気軽に参加できる「ボランティアパック」を作り、何個でも体験できるボランティアを提案した。(社協)					

成果と課題	・ニーズに即したボランティア養成講座を開催できた。eスポーツ養成講座には中学生から高齢者までの幅広い年代の方に受講していただき、受講者の中からサポーター登録につながった。令和6年度のeスポーツの推進につながるよう支援していきたい。 ・「ボランティアパック」が気軽に参加できるボランティア活動のきっかけづくりにつながった。	社協判定 3
評価委員 の意見	・気軽に参加できる「ボランティアパック」は良い取り組みであり、より多くの方に参加してもらうよう内容の充実と情報発信していくことが重要である。ボランティアパックを体験した後、どのようにボランティア活動につながったか検証が必要である。	総合判定 3

【総合判定】 3：計画どおり進んでいる 2：概ね計画どおり進んでいる 1：あまり進んでいない 0：進んでいない

向の今 性方後	・気軽にボランティアに参加できる「ボランティアパック」の内容を充実するとともに、子どもに限らず大人にも参加を促していく。
------------	--

令和５年度「第４次砺波市地域福祉活動計画」評価⑥		
地域福祉計画体系	基本目標	２ みんなで支える地域づくり
	方向性	(２) 地域における絆の強化
	推進目標	⑥ 地域について学ぶ場やふれあいの場の充実を図ります
	実施計画	地域での交流の場の活性化
	ねらい	子ども、高齢者、障がい者など、誰もがお互いを尊重し、地域の中で積極的に関わりがもてるような居場所や学びの場を提供し、交流活動を推進します。

指標の名称		R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
な 図 成 指 標 果 主 を	子育て支援事業参加人数	475 人	915 人	1,790 人		
主 な 取 組 み	■子どもや障がい者に対する地域行事などへの参加呼びかけ					
	・公民館まつりで、e スポーツ体験を通して、子どもと高齢者が一緒に楽しむ機会を作った。(地区と社協) ・地域のりんご農家でリンゴ摘みとアップルパイ作り体験を行い、地域の方と交流を図った。(地域と福祉センター、社協)					
	■福祉センターを活用し、多様な世代が集う交流拠点となるような場づくり					
	・各福祉センターの特色を活かして、子どもやその親を対象にしたイベントや若い世代も興味をもてる講座を開催した。(福祉センター) ・夏休みなどの長期休みに児童の居場所となるよう、苗加苑と北部苑でわんぱく広場を開催し、ボランティアや福祉センター利用者との交流を図った。(福祉センターと社協) ・百歳体操や健康体操、e スポーツ体験会などを開催し介護予防を推進した。(福祉センター) ・地域のボランティアグループの協力のもと、親子を対象にしたそば打ち体験を行った。(地域と庄東センター)					

成果と課題	・多世代が集まる地区の公民館まつりにe スポーツを活用したことで、子どもと高齢者が一緒に楽しむきっかけを作ることができた。高齢者に操作を教える子どもや、子どもの上手さにびっくりする高齢者の様子が見られた。 ・子どもの保護者の利用料が無料になったことや地区や学校へ福祉センターの活用を提案してきたことで、子どもの利用とその保護者世代の利用が大きく増えた。学校が休みの日に福祉センターを利用することで、保護者の安心につながっている。	社協判定
		3
評価委員会の意見	・子どもと高齢者が一緒に楽しめる e スポーツは効果の高い良い取り組みである。ますます推進してほしい。 ・障がい者に対する取り組みが少ない。障がい者を含めた地域の交流の場づくりを推進してほしい。	総合判定
		3

【総合判定】 3：計画どおり進んでいる 2：概ね計画どおり進んでいる 1：あまり進んでいない 0：進んでいない

今後の方向性	・e スポーツやボードゲームなどのツールを活用し、子どもも高齢者も一緒に楽しみふれあえる機会作りを推進していく。 ・障がい者と地域がふれあう場づくりの好事例を紹介し、誰もが参加できる交流活動を推進していく。
--------	--

令和5年度「第4次砺波市地域福祉活動計画」評価⑦		
系地域福祉計画面	基本目標	2 みんなで支える地域づくり
	方向性	(2) 地域における絆の強化
	推進目標	⑦ 支え合う福祉活動を推進します
	実施計画	見守り活動の推進【重点計画】
	ねらい	日常的な住民同士の見守り活動を推進し、お互いさまで支えあう地域づくりを支援します。

指標の名称		R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
成果を 図る 主な 指標	ケアネットチーム数	206 チーム	263 チーム	258 チーム		
	見守り配食数	3,438 食	3,184 食	2,971 食		
	ふれあい・いきいきサロン数	133 サロン	133 サロン	131 サロン		
主な 取り組み	■学校、家庭、地域が連携して子どもを見守り育んでいく環境づくり ・課題の多いひとり親世帯に対し、ケアネットチームによる見守りができている。現状確認や今後の方向性などを協議した。(関係機関と地域) ・子どもの学習支援事業を受託し、地域やボランティア、企業、社協が協力しながら支援が必要な子どもとその世帯を支援している。(関係者と社協) ・地区において、子育てボランティアグループが地区の実情に合わせて活動している。(地域とボランティア)					
	■支援が必要な人への見守り体制づくり ・地域に出向きケアネットについて説明を行い、周知と活動への協力をお願いした。(地区と社協) ・広報やFM となみでケアネット活動について発信した。 ・高齢者世帯だけでなく、障がい者や子どもを抱える世帯の支援事例を紹介した。(社協)					
	■いきがいきづくり、仲間づくりとしての居場所の整備 ・ふれあい・いきいきサロン代表者交流会を開催し、意見交換を通じて交流を深めるとともに参考となる取組みを話し合った。(サロンと社協) ・ふれあい・いきいきサロンの活動の参考として、レクリエーションや出前講座等の「おしながき」を配布した。(サロンと社協) ・ふれあい・いきいきサロン訪問を実施し、現状と課題の把握を行った。(社協) ・ふれあい・いきいきサロンにeスポーツを推進した。(社協) ・老人クラブの研修会でケアネットや社協の事業等の説明を行い、連携を図った。(老人クラブと社協)					
	■研修会等を開催し、推進地区の取り組みの紹介 ・ケアネットのシンポジウムを開催し、好事例の紹介を行った。(福祉関係者と社協) ・モデル事業の「地域なんでも相談窓口」の紹介と効果等の説明を行った。(地区と社協)					

成果と課題	・ふれあい・いきいきサロンに男性参加者が少ない課題があったが、eスポーツを体験したことで、男性でも女性でも共に楽しめるツールと認識が広まっており、男性の参加へのきっかけとなればと考える。 ・学習支援事業を通して、子どもを地域とボランティア、企業が協力して支援していく体制ができた。 ・地区としてケアネットに取り組んでいるところ、民生委員が個々で取り組んでいるところがあり、地域で見守る支援体制が進みにくい地区がある。	社協判定
		3
評価委員会の意見	・ふれあい・いきいきサロン等の日常的にふれあえる機会は重要であり、男性の参加が進んでいることは良い。 ・高齢者に限らず、障がい者やひきこもりの方への見守り体制づくりが必要である。	総合判定
		3

【総合判定】 3：計画どおり進んでいる 2：概ね計画どおり進んでいる 1：あまり進んでいない 0：進んでいない

今後の方向性	・地域の居場所づくりの好事例を紹介し、誰もが参加できる居場所づくりを推進していく。 ・高齢者以外の見守り体制の事例を紹介し、障がい者やひきこもりの方等の新たなケアネットチームの立ち上げや住民が協力しやすい活動の参考となるよう支援していく。
--------	--

令和5年度「第4次砺波市地域福祉活動計画」評価⑧		
地域福祉計画体系	基本目標	3 安心して暮らせる地域づくり
	方向性	(1) 相談支援体制の充実
	推進目標	⑧ 複雑に重なりあう困りごとに対応していきます
	実施計画	複合的な課題に対する相談支援体制の強化【重点計画】
	ねらい	多様な生活課題に対応していくために、各種専門機関と連携し、身近で気軽な相談場所の設置と、適切な助言と支援を受けることができるよう体制を整備します。

指標の名称		R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
成果を図る 主な指標	事例検討会の開催回数	11 回	8 回	13 回		
	福祉総合相談件数	4,645 件	5,172 件	5,697 件		
	生活困窮者自立支援事業新規相談件数	59 件	50 件	78 件		
	生活困窮者自立支援事業新規相談件数	59 件	50 件	78 件		
主な取り組み	■福祉総合相談事業の周知					
	・広報、社協ホームページ、地域の掲示板などで相談会の案内をした。(社協) ・4地区で社協職員が出張して行う身近な相談窓口「CSW 出張相談」、2地区で行った「地域なんでも相談窓口」について、回覧板にて周知した。(地区と社協) ・生活困窮者自立相談支援事業を受託し、市と連携を図りながら、相談窓口の周知を図った。(市と社協)					
	■事例検討会や勉強会を通し各相談機関とのネットワークを強化					
	・相談支援事業所、福祉関係者、地域の方、弁護士等に参加してもらい、複合的な課題を抱える事例の検討を行った。(関係機関と社協) ・重層的支援体制を意識した砺波市の社会資源シートを作成し、そのシートをもとに勉強会を開催した。					
	■広報や回覧板、HP、SNSなどを活用し、気軽に相談できる体制づくり					
	・4地区で社協職員が出張して行う相談窓口「CSW 出張相談」を毎月開催するとともに、2地区では住民が主体的に相談を受付る「地域なんでも相談窓口」を開設した。 ・福祉の情報や相談窓口について、ホームページやSNS、回覧板等で発信した。(社協)					

成果と課題	・生活困窮者自立相談支援事業を受託したことで、社協が持つ事業や資源と連携し、相談者の課題解決の早期対応につながった。 ・モデル事業の「地域なんでも相談窓口」が身近な相談場所として、ちょっとした相談から専門的支援が必要な相談が寄せられた。社協のCSWが定期的に訪問し、課題を共有することで、必要な支援につながるとともに地域の方の安心につながった。そのことから、令和6年度の新規事業として市内に広めていくことになった。重層的な相談体制の1つであるとする。	社協判定
		3
評価委員会の意見	・地域で気軽に相談できる「地域なんでも相談窓口」が増えていけば良い。また、CSWのアウトリーチと取組みとあわせて行っていることは評価できる。 ・重層的支援体制の構築を図ってほしい。	総合判定
		3

【総合判定】 3：計画どおり進んでいる 2：概ね計画どおり進んでいる 1：あまり進んでいない 0：進んでいない

今後の方向性	・「地域なんでも相談窓口」を立ち上げた地区が、効果的に事業を実施できるよう地区の方と一緒に取り組んでいく。相談員が安心して活動できるよう傾聴や相談の受け方などの研修会を実施する。 ・「地域なんでも相談窓口」を包括的相談支援体制の一つととらえ、第3層（地域）、第2層（ブロック）、第1層（市）の各層での相談解決の仕組みを構築していく。
--------	---

令和5年度「第4次砺波市地域福祉活動計画」評価⑨		
地域福祉計画体系	基本目標	3 安心して暮らせる地域づくり
	方向性	(2) 防災、防犯、緊急時体制の整備
	推進目標	⑨ 災害に強い地域づくりを目指します
	実施計画	災害救援ボランティアセンターの体制強化
	ねらい	災害発生時のボランティア活動を効率よく行うために、災害救援ボランティアセンターの機能強化を図るとともに、センター運営について市との連携を図ります。

指標の名称		R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
な 図 成 指 標 果 主 を	訓練・研修への参加者数	25 人	115 人	92 人		
主 な 取 り 組 み	■市と社協との災害に関する連携強化					
	・市の総合防災訓練と合わせて、災害ボランティアセンター運営訓練を実施した。(市と社協)					
	・市と災害時における連携に関する協定を締結した。(市と社協)					
	■ボランティア団体、企業など民間組織との連携強化					
	・災害ボランティアセンター運営訓練にとなみセントラルライオンズクラブととなみ青年会議所、民生委員児童委員等に参加していただいた。(企業と地区、社協)					
	■実際の災害を想定した訓練の実施					
	・QRコードや登録フォーム等のICTを活用した訓練を実施した。(社協)					
	■地域住民を交えた訓練の実施					
	・市の総合防災訓練と合わせて、災害ボランティアセンター運営訓練と福祉避難所開設訓練を地域住民と実施した。(地区と市、社協)					
	■災害ボランティアセンターの支援体制ネットワークの構築					
	・企業、地域の福祉関係者、行政に参加いただき、災害ボランティアセンターネットワーク構築研修会を開催した。 ・高岡市と氷見市、輪島市の災害ボランティアセンターに職員を派遣し、センター業務の支援を行うとともに実際の現場を体験した。					

成果と課題	・市と災害時における協定を結ぶことができた。 ・7月と令和6年1月の災害において、市との連携及び地域との連携に課題が見られたので、令和6年度にマニュアルの修正を含めて、市や地域と改めて協議を行う必要がある。 ・高岡市、氷見市、輪島市の実際の災害ボランティアセンターを体験したことで、タイムラインや運営の注意点、課題など、センター運営のイメージがさらに明確になった。この経験を訓練に取り入れていくことが必要である。	社協判定
		3
会の評価委員の意見	・実際の災害現場での活動で得た経験を災害ボランティアセンターの運営訓練に活かしてほしい。また、見えてきた課題を検討し、より良い体制づくりを進めてほしい。	総合判定
		3

【総合判定】 3：計画どおり進んでいる 2：概ね計画どおり進んでいる 1：あまり進んでいない 0：進んでいない

今後の方向性	・スタッフ側とボランティア側それぞれの立場で、災害ボランティアセンターの活動を体験したことと見えてきた課題を踏まえ、災害ボランティアセンターの運営訓練を実施していく。また、災害ボランティアセンター運営マニュアルの見直しを行っていく。
--------	--

令和5年度「第4次砺波市地域福祉活動計画」評価⑩-1		
系地域福祉計画 面体	基本目標	3 安心して暮らせる地域づくり
	方向性	(3) 安心して暮らせる基盤づくり
	推進目標	⑩-1 福祉の情報をわかりやすく伝えます
	実施計画	情報発信や情報共有を行えるプラットフォームづくり【重点計画】
	ねらい	地域の中で誰もがが必要な福祉サービスなどを安心して利用できるように、情報収集と情報発信の充実を図ります。

指標の名称		R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
成果を 図る 主な 指標	HP・ブログの更新回数	167 回	291 回	256 回		
主な 取り組み	■市内の福祉情報を集約し受発信する方法の検討					
	・3月より新しい社協ホームページを更新した。目的別に検索でき、高齢者にも見やすく、新着情報がわかりやすいように工夫をした。(社協) ・ボランティアや地域福祉コーディネーター、民生委員児童委員等を対象に「情報発信講座」を開催した。 ・社協の情報を市のホームページにも載せてもらうよう依頼した。(市と社協)					
	■広報や回覧板、SNS等を活用し、誰でもわかりやすい情報発信 ・X(旧ツイッター)とインスタグラムでの情報発信を行った。(社協) ・ボランティア養成講座や福祉イベント等の情報を各地区に配布し、地区住民に回覧板として周知をお願いした。(地区と社協)					

成果と課題	・福祉活動者が自ら活動を発信していくことが重要であることから、情報発信講座を開催し、情報発信のきっかけづくりができた。また、実際にアカウントを取得した。 ・新しいホームページに更新したので、福祉情報発信のプラットフォームとなるように活用していくことが重要である。	社協判定
		3
評価委員会の意見	・新しいホームページは見やすく良い。 ・Xやインスタグラム等のSNSの活用は評価できるが、その効果はどのくらいあるのか検証が必要である。 ・若い人が福祉に関心を持ってもらうような情報発信が重要である。	総合判定
		3

【総合判定】 3：計画どおり進んでいる 2：概ね計画どおり進んでいる 1：あまり進んでいない 0：進んでいない

今後の方向性	・新しいホームページが福祉情報のプラットフォームになるよう、SNSの活用や広報誌、回覧版等の様々な情報媒体と連携を図り、情報発信を行っていく。
--------	---

令和5年度「第4次砺波市地域福祉活動計画」評価⑩-2		
地域福祉計画体系	基本目標	3 安心して暮らせる地域づくり
	方向性	(3) 安心して暮らせる基盤づくり
	推進目標	⑩-2 地域の中の社会資源を活用し、多様な福祉課題に対応していきます
	実施計画	移動支援など生活課題の検討
	ねらい	地域の社会資源を活用し、移動に不便を感じておられる人の移動支援や生活課題などについて検討します。

指標の名称		R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
成果を 図る 主な 指標	ふれあい号の利用者数（延べ）	477 人	525 人	549 人		
	福祉バス利用回数	25 回	54 回	80 回		
主な 取り組み	■ふれあい号のあり方の検討 ・ふれあい号友の会総会を開催し、運転ボランティアの意見を伺った。（ボランティアと社協） ・運転ボランティアの法定講習の受講機会を増やし、養成講座修了者の確保に努めた。（企業と社協） ・庄川支所廃止に伴い、庄川エリアの運行に支障が出ないように、運転ボランティアに説明と協力をお願いした。（ボランティアと社協）					
	■福祉バスの活用 ・サロン活動が増えたことにより、福祉バスの利用回数が増加した。 ・梅檀山地区が、地域課題解決のため福祉バスを活用し、買い物や外出の支援を行った。（地区と社協）					
	■既存の社会資源の確認と活用 ・公民館等を活用して、誰でも集えるカフェを行う地区が増えてきた。（地区） ・移動支援についての研修会で、介護タクシー、ふれあい号、チョイソコとなみの事業説明を行った。（企業と市、社協）					
	■市内の福祉団体と生活課題に対する対応の検討 ・市と医師会、社会福祉法人連絡会で6回の相談会を開催し、ニーズの把握と課題解決に努めた。（市と医師会、福祉団体） ・事例検討会で、課題の傾向と解決するための社会資源について検討した。（福祉関係機関と社協）					

成果と課題	・地区では公民館などの資源を活用したカフェなどの居場所づくりが増えてきた。場所を作るだけでなく、百歳体操や100円うどん、身近な相談窓口、eスポーツなど他の資源も付加し、より多くの方が集えるように工夫をしている。	社協判定
		3
評価委員会の意見	・移動支援は少しずつ増えてきたが、まだ足りないところがある。益々の充実が求められる。 ・身近なところでの地域カフェが増えてきたことは、安心して過ごせる地域づくりにつながってきている。	総合判定
		3

【総合判定】 3：計画どおり進んでいる 2：概ね計画どおり進んでいる 1：あまり進んでいない 0：進んでいない

今後の方向性	・その方にあった移動手段を提案していく。 ・地域課題の把握を行い、地域の方と一緒に解決に向けて取り組んでいく。 ・地域カフェなどの新たな地域資源の取組みを支援していく。
--------	--